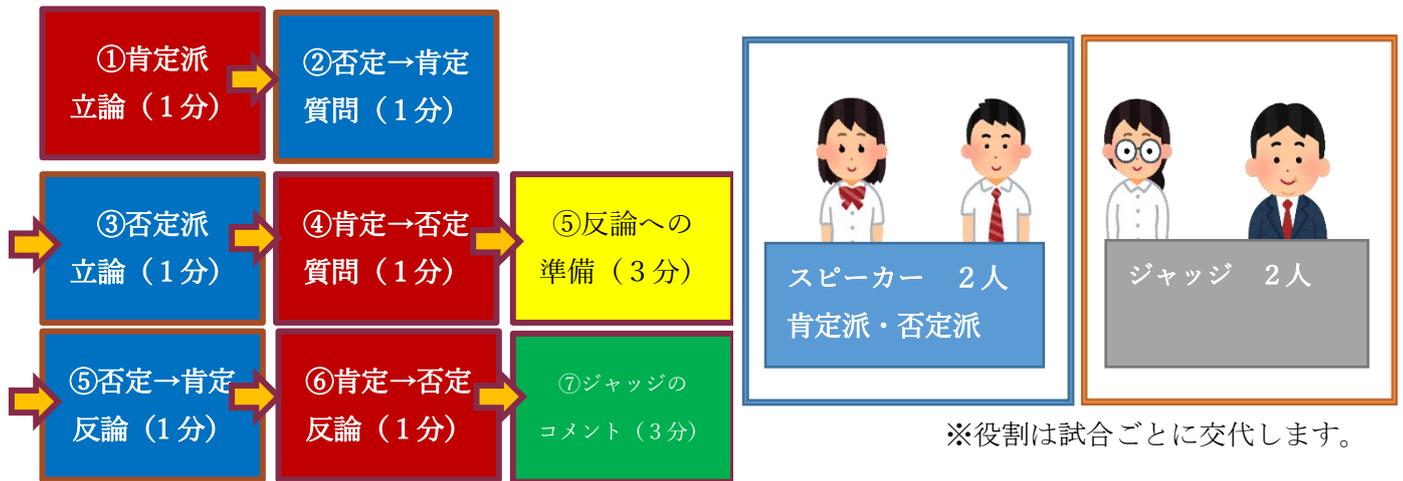


対話活動を充実させる多様な学習形態の工夫

英語で行うペア・ディベートの活動を紹介します。この活動の意図は、①見方・考え方を働かせながら、情報を整理して考えを形成・再構築することができる力、②日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて、考えを論理的に伝え合うことができる力、③立論・質問・反論で同じ内容について確認し、繰り返し議論することで、流暢に話すことができる力を育成することです。

〈ペア・ディベートの流れ〉



【ペア・ディベートの実施方法】

4人グループで、2人がスピーカー、2人がジャッジの役割をします。単元の学習を踏まえ、論題を設定します。例えば、学習に関することを扱った単元であれば、生徒の関心や学んだ語彙を考え、“Studying alone is better than studying with friends.”を論題とします。

スピーカーは、肯定派または否定派の立場から、ひとりで立論・質疑応答・反論の3つを担当します。立論では自分の考えをまとめ、発表する内容と英語での表現方法を吟味して選択し、作成したメモをもとに相手に伝わるよう口頭で発表します。また、相手のスピーチを聞き取り、すべき質問を考え、反論で相手の意見を踏まえて自分の考えを再主張します。思考力・判断力・表現力を働かせ、英語の4技能5領域に触れて取り組む活動です。

ジャッジは、すべての議論のメモをとり、試合後に議論の流れを要約しフィードバックします。スピーカーの話の聞き取り、再構成して発表するため、ジャッジも思考力・判断力・表現力を発揮しながら取り組みます。

**主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善のポイント**

- 「やり取り」を授業で行う機会を意識して設定します。ペア・ディベートのように自分の役割が決まっている活動では、英語を使う必然性をもたせることができます。「伝わった」「聞き取って理解することができた」という成功体験が、英語を使って即興でやり取りすることへの意欲を高め、主体的な活動へつなげます。
- 適切な論題を設定します。論題は、教科書で学んだ内容と関連しているもの、肯定派と否定派のどちらからも意見が出せるもの、生徒の関心に沿っているものを設定します。